



問 圏央道インター周辺開発について

答 商業施設の誘致は計画どおり進めたい

問 五霞町は業務代行方式を取り入れているが、その内容とメリットについて伺う。

都市建設課長 業務代行型の土地区画整理事業とは、民間事業者が保留地の取得を条件とし土地区画整理組合からの委託に基づき資金調達から事業の施工、企業誘致までを代行する方式のことである。メリットについては、行政にはない資金調達力と民間特有の円滑で迅速な対応などが挙げられる。

問 今回の開発地域がA、B、Cブロックに分けてあるが、当初の計画について伺う。

都市建設課長 当初の計画としては新4号国道沿線のA及びBブロックについては商業施設、Cブロックについては商業・工業・物流など複合的な土地利用

の推進を業務代行者とともに図ってきたところである。

問 Aブロックの商系から流通系になった経緯について伺う。

都市建設課長 新4号国道に対して奥行きがなく、面積を含めた土地の形状から奥に店舗、手前に駐車スペースという配置が難しいことと、新4号国道が6車線化になった時に段差が生じ直接入り込めないことが理由である。

問 Bブロックの商業施設の誘致の現状と今後の見通しについて伺う。

副町長 業務代行者の方では幅広い業種、商系の事業者数十社に、関東にとどまらず、全国に至るまで営業活動を実施していると伺っている。しかし、残念

ながら現時点では報告できるような状況には至っていない。また、県の立地推進東京本部、それに県の立地推進室とも連携を図りながら誘致決定の報告ができるよう努めていく。

問 道の駅に隣接する7,300㎡の開発用地については、圏央道の開通とともに利用者の増大が見込まれる道の駅に関連する施設の用地として、町が取得をしておくべきと考えるが、その考えがあるかどうか伺う。

町長 道の駅の慢性的な駐車場不足ということで、大変利用者に不便をかけている。今回のインター周辺開発事業に合わせて解決すべき問題だろうと認識しているところである。



造成工事中の「道の駅ごか」東側